

保育者養成校のピアノ指導における遠隔授業の実践と課題

— 2020年度「音楽実技Ⅱ」アンケート調査報告 —

Practical Study of Remote Piano Instruction at an Early Childhood Education and Care Training Institution

— A Survey of Students' Reactions to “Practical Skills in Music II” (2020) —

大澤里紗

OSAWA, Risa

キーワード：ピアノ指導、オンラインレッスン、遠隔授業、保育者養成校、弾き歌い

はじめに

本稿は、こども教育宝仙大学（以下、本学）こども教育学部幼児教育学科2年生の授業科目「音楽実技Ⅱ」（2020年度春学期）の実践報告である。

「音楽実技Ⅱ」は、保育実践に不可欠なピアノ演奏の表現技術を習得することを目標とし、子どもの歌の弾き歌いの指導が主な授業内容である。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響から、春学期(全15回)は全て遠隔授業となり、従来の授業内容とは異なる内容で授業を運営せざるを得なくなった。秋学期に入り、現段階では(2020年10月)対面授業と遠隔授業を並行して運営しているが、未だ感染拡大に予断を許さぬ事態が続き、今後も不透明な情勢が続くことが予想される。

本稿は、春学期の遠隔授業内容についての報告と学生へのアンケート調査をまとめ、遠隔授業と今後の指導の課題について考察することを目的に進めていく。

1. 「音楽実技Ⅱ」の授業概要

1-1. 「音楽実技Ⅱ」の位置付け

本学の音楽科目は、1年次の春学期に「音楽と表現Ⅰ」、1年次の秋学期に「音楽実技Ⅰ」、2年次の春学期に「音楽実技Ⅱ」、2年次の秋学期に「音楽と表現Ⅱ」が開講されている(表1)。

「音楽と表現Ⅰ」「音楽実技Ⅰ」は本学の新カリキュラム(以下、新カリ)開設に伴い、2019年度に新しく開講された科目である。同様に、旧カリキュラム(以下、旧カリ)の「器楽演習(基礎)」、「器楽演習(応用)」は、

表1 本学の1年次・2年次の音楽科目と「音楽実技Ⅱ」の位置付け

	1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期
旧カリ	音楽演習(基礎)	音楽演習(応用)	器楽演習(基礎)	器楽演習(応用)
	声楽(基礎)	声楽(応用)		
新カリ	音楽と表現Ⅰ	音楽実技Ⅰ	音楽実技Ⅱ	音楽と表現Ⅱ

新カリで「音楽実技Ⅱ」「音楽と表現Ⅱ」となり、両科目は今年度からスタートした。

新カリの音楽科目で使用している共通教材は、『こどものうた200』、『続・こどものうた200』(チャイルド社)、『子どものための音楽表現技術』(萌文書林)の三冊、副教材としてオリジナルの学習シートである「音楽ファイル」、「音楽カルテ」を使用している。1年次春学期の「音楽と表現Ⅰ」では、一人ひとりの身体から発せられる声の表現、また同様に身体との有機的連関に裏付けられる鍵盤楽器の表現の基礎について理解を深め、その素晴らしさを実感を持って味わうこと目標としている¹。詳しい実践報告については、葛西ほか(2019)を参照されたい。

1年次秋学期の「音楽実技Ⅰ」では、90分間の授業を45分間ずつに分けて、読譜に必要な基礎的な音楽知識(楽典)の講義とピアノレッスンを行い、実技レッスンを中心とした授業内容となっている²。本報告の対象科目である「音楽実技Ⅱ」では、保育現場で必要とされる実践的なピアノの技術を習得することを目標とし、「音楽実技Ⅰ」の授業内容からさらに一歩踏み込んだ学習に取り組んでいる。

1-2. 授業概要と到達目標

シラバス(2020)に記載されている「音楽実技Ⅱ」の授業概要と到達目標は以下の通りである。

授業概要：個別指導を中心に子どもの歌(弾き歌い)のレパートリーを拡げつつ、グループワークによる子どもの歌の相互学習(歌唱と伴奏)を積極的に行う。学期後半は連弾に取り組み、他者と共に1つの音楽を作り上げ、その成果を発表する。

到達目標：1. それぞれのレベルに応じた子どもの歌(ピアノ伴奏による弾き歌い)のレパートリーを拡げ、その歌唱伴奏を務めることができる。

2. 連弾への取り組みを通して、アンサンブルの基礎を理解する。

2. 遠隔授業実践報告

2-1. 授業概要

当初「音楽実技Ⅱ」の授業では、子どもの歌の弾き歌いレパートリーを増やすだけではなく、アンサンブル能力を養うため学生同士による「連弾学習」を予定していた。旧カリの「器楽演習(基礎)」においても「連弾学習」を取り入れており、このような学習方法は一緒に音楽を楽しみながら学べるという点でピアノ初心者にとって有効な取り組みの一つである。

しかし、今学期は遠隔授業となり「連弾学習」は不可能となったため、遠隔による個人レッスンを軸に指導を行なった。全15回の授業計画は以下の通りである(表2)。

2-2. 遠隔授業の実施方法

本学の遠隔授業実施の基本的な方針は、「①資料や課題提示による授業実施」、「②オンデマンド配信による授業実施」、「③リアルタイム配信による授業実施」の3つである³⁾。「音楽実技Ⅱ」では、Google Classroom(以下、GCR)を使用した「②オンデマンド配信による授業実施」とZoomを使用した「③リアルタイム配信による授業実施」の二つを組み合わせることで授業を運営した。

GCRを使用したオンデマンド配信による授業では、演奏動画の視聴とレッスンについての振り返りコメントを課題にしている。演奏動画は、副教材の「音楽カルテ」に記載されている10曲の子どもの歌の弾き歌いである。今学期は、春学期の課題曲について教員が演奏方法を説明している演奏動画を作成し、毎週GCRに配信した。課題の予習と復習に使用し、自宅での練習を効率的に進められることをねらいとしている。4人の教員で課題曲を振り分け、主に①歌唱方法、②右手メロディーの弾き方、③左手コード伴奏の弾き方、④両手弾き歌いの4つの観点から動画を作成した。撮影方法は、楽譜が読めな

いピアノ初学者を考慮して、鍵盤から垂直にカメラを設置し、弾いている手元が映るように撮影し、指番号や演奏上の注意点については、字幕や口頭で説明を加えている(図1)。また、一年次の復習としてハ長調・ト長調・ニ長調・ヘ長調のコードネームについての動画を別途作成し、参照資料として活用した。

Zoomを使用したリアルタイム配信による授業では、クラスミーティング(出欠確認)、個人レッスン、実技試験、質疑応答に対応したが、これらは双方向型による授業のため学生の通信量などの負担を少なくすることを前提とした。4人の教員が担当する学生は6~8名のため、指導時間は学生一人当たり最大10分間とし、学生の

表2 2020年度「音楽実技Ⅱ」授業計画

回数	テーマ	授業スタイル	Zoom	Google Classroom	概要	子どもの歌弾き歌い動画(課題)
1	オリエンテーション		クラスミーティング	①アンケート ②楽典クイズ ③コメント	クラス分け発表、授業概要等説明、スケジュール確認	
2	弾き歌い指導	Zoom/Google Classroom	クラスミーティング・オンラインレッスン	①動画視聴 ②コメント	面談/ハ長調のコードネームの復習/弾き歌い課題①	①朝のうた
3			①動画視聴 ②コメント	弾き歌い課題②	②手を叩きましょう	
4			①動画視聴 ②コメント	ヘ長調のコードネームの復習/弾き歌い課題③	③幸せなら手をたたこう	
5			①動画視聴 ②コメント	ト長調のコードネームの復習/弾き歌い課題④	④山の音楽家	
6			①動画視聴 ②コメント	三連符と付点について/弾き歌い課題⑤	⑤おぼけなんぞない	
7			講義・弾き歌い指導	Zoom/Google Classroom	①動画視聴 ②コメント	楽典講義 オンラインレッスン
8	中間試験		クラスミーティング	①楽典試験 ②小レポート	楽典試験 小レポート	
9	弾き歌い指導	Zoom/Google Classroom	クラスミーティング・オンラインレッスン	①動画視聴 ②コメント	ニ長調のコードネームの復習/弾き歌い課題⑥⑦	⑥こぶためきつね ⑦しゃぼんだま
10			①動画視聴 ②コメント	弾き歌い課題⑧	⑧次のおまわりさん	
11			①動画視聴 ②コメント	弾き歌い課題⑨	⑨あめふりくまのこ	
12			①動画視聴 ②コメント	弾き歌い課題⑩	⑩おかあさん	
13			①動画視聴 ②コメント	2年春のまとめ	2年春のまとめ	
14	リハーサル		①コメント	公開リハーサル(クラス)		
15	期末試験		実技試験	①実技試験 ②期末アンケート ③振り返りコメント	実技試験(2年春学期に履修した楽曲から2曲弾き歌い)	

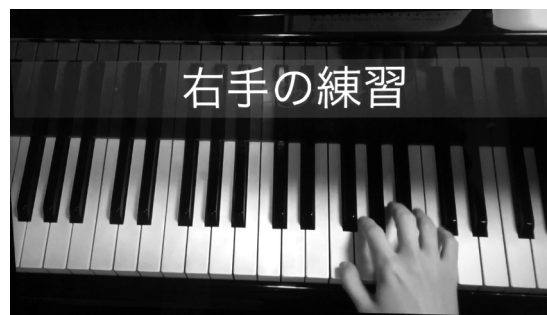


図1 演奏動画の撮影例

学習環境やインターネット接続環境への配慮を心がけた。レッスンでは、教員があらかじめ個人レッスンのタイムスケジュールを周知した上で、学生は決められた時間に Zoom に入室し、教員とマンツーマンの個人レッスンを受けてもらった。

3. 遠隔授業に関するアンケート調査

3-1. アンケート実施方法

上記の方法で15回の遠隔授業を実施し、最終授業日には2020年度「音楽実技Ⅱ」の履修登録者88名に、Google フォームを使用して授業評価アンケート調査を行なった。アンケート調査は、最終授業日の実技試験後に行い、

授業時間内提出を期限にした。また、学生には、倫理的配慮として本アンケート調査のデータは授業改善と研究目的以外には使用しないこと、回答内容は一切成績に関わらないこと、調査結果を研究目的に使用する場合には、個人が特定されないよう配慮する旨を、アンケート冒頭の説明文に付記した。

実際にアンケート調査に回答した学生は84名（2限：29名、3限：29名、4限：30名）であり、回答率は95.45%であった。アンケートの質問項目数は32あり、回答方法は各設問の内容によって「5段階評価」、「選択式」、「記述式」に分かれている。全設問は以下の通りである（表3）。

3-2. アンケート調査の結果と報告

項目Ⅰ～Ⅲでは、一般的な授業評価アンケート調査でも取り入れられる「授業への取り組み・授業内容・教員のスキル」について調査した。本稿では、調査対象である「遠隔授業について」の設問を中心とした項目Ⅳについての結果を報告する。尚、本文中に引用した学生の自由記述は、回答内容をそのまま記載している。

(1) 遠隔授業受講時の環境についての設問

Ⅳ-1、Ⅳ-2は、遠隔授業受講時に使用したデバイスと環境（部屋）についての調査である。最も使用されたデバイスはスマートフォンが67.9%であり、パソコンが23.8%、タブレットが8.3%であった。学生の遠隔授業時のスマートフォン使用率に関しては、本学が4月に行った在学生の Web 環境調査結果によって教員全体に周知されていたため、音楽科目では演奏動画を投稿する際に、譜面の添付や字幕などの文字入力の際にはスマートフォンでの閲覧を想定して作成を試みた。

他の遠隔授業科目と異なる点としては、受講する環境が挙げられる。「音楽実技Ⅱ」の受講場所は、自分の部屋が57.1%、家族との共用の部屋（リビングなど）が35.7%、その他（親戚の家、ピアノの部屋など）が7.2%であった。講義科目であれば、自室での受講が可能であるが、オンラインレッスンではピアノや電子ピアノを使用するため、家庭によっては家族との共用スペースであるリビングなどの自室以外で受講している学生もいた。Ⅳ-3の回答の中には、「リビングにピアノを置いているため生活音が入り込んでしまう」、「ピアノを使用するために家族に部屋を空けてもらうなどの配慮が必要だった」などが寄せられ、家族に自分の演奏を聞かれる緊張や恥ずかしさなどの心理的な要因から、レッスンに集中することが難しいと感じた学生もいた。

表3 アンケート調査全設問

項目	回答方法	設問
Ⅰ 授業への取り組みについて	5段階	1.あなたはこの授業に対して意欲的に取り組みましたか。
	5段階	2.授業に対して予習や復習を積極的に行いましたか。
	5段階	3.学習目標が明確に設定されていた
Ⅱ 授業内容について	5段階	4.授業の内容はよく整理、計画されていた
	5段階	5.授業の学習量は適切だった
	5段階	6.課題の量は適切だった
	5段階	7.教員のレッスンや指導は効果的だった
Ⅲ 教員のスキルと対応	5段階	8.教員は生徒の興味・関心をかき立てた
	5段階	9.教員は授業時間を効果的に使った
	5段階	10.教員は質問に丁寧に対応してくれた
Ⅳ 遠隔授業について	選択式	1.遠隔授業・オンラインレッスン受講にあたって、最も使用頻度の高かったものを1つ選んでください。※遠隔授業全体ではなく「音楽実技Ⅱ」を受講する際に使用したものを選択してください。
	選択式	2.遠隔授業・オンラインレッスンを受講した場所(環境)を教えてください。
	記述式	3.遠隔授業・オンラインレッスンを受講するにあたって、苦労したことがあれば詳しく教えてください。
	選択式	4.遠隔授業受講中の1週間の合計練習時間(予習・復習時間)を教えてください。
	選択式	5.1年次の「音楽と表現Ⅰ」や「音楽実技Ⅰ」などの対面授業と比較して、遠隔授業受講中の練習時間に変化はありましたか。
	記述式	6.上記の回答について、その理由をお答えください。
	記述式	7.1年次の「音楽と表現Ⅰ」や「音楽実技Ⅰ」などの対面授業と比較して、「遠隔授業を受けて良かった」と思うことについて教えてください。
	記述式	8.1年次の「音楽と表現Ⅰ」や「音楽実技Ⅰ」などの対面授業と比較して、「遠隔授業を受けて困ったこと」について教えてください。
	5段階	9.1年次の「音楽と表現Ⅰ」や「音楽実技Ⅰ」などの対面授業と比較して、遠隔授業では以下の項目はどのように変化しましたか。※自己評価で構いません 項目：集中力・理解度・やる気・歌唱の技術・ピアノの技術・譜読みのスピード
	記述式	10.「集中力」または「理解度」が「上がった」「やや上がった」と答えた方は、その理由を教えてください。※「下がった」、「やや下がった」を選択した方は14に進んでください。どちらも「変わらない」を選択した方は15に進んでください。
	記述式	11.「集中力」または「理解度」が「下がった」「やや下がった」と答えた方はその理由を教えてください。
	5段階	12.遠隔授業について、以下の項目の満足度を教えてください。 項目：コードネーム・歌唱方法・伴奏方法・指使い・表現(強弱)・指の形
	記述式	13.オンラインレッスンの満足度について、上記の回答の理由を教えてください。
	記述式	14.オンラインレッスンについて、今後改善してほしいことや要望などがあれば記述して下さい。
	選択式	15.演奏動画では、以下の項目について理解できましたか。
	記述式	16.演奏動画について、今後改善してほしいことや要望などがあれば記述して下さい。
	記述式	17.あなたが考える「オンラインレッスン」のメリットとデメリットを教えてください。
	記述式	18.あなたが考える「対面レッスン」のメリットとデメリットを教えてください。
	選択式	19.この授業について、全体的な満足度を教えてください。
	記述式	20.上記の回答について、その理由を教えてください。
	選択式	21.秋学期以降の「こどもの歌(弾き歌い)」のレッスン(個別指導)について、今のあなたの考えに最も近いものを1つ選択して下さい。
	記述式	22.その他、授業全般について、改善してほしいことや要望、教員へのメッセージなどがあれば自由に記述して下さい。お疲れ様でした！

(2) 練習時間の変化に関する設問

IV-4、IV-5、IV-6では、前年度との比較を踏まえて、自宅学習による練習時間の変化について質問し、学生の練習に対する意識の変化を調査した。その結果、「昨年度よりも練習時間が増えた」と回答した学生は60.7%、「昨年度よりも練習時間が減った」と回答した学生は16.7%、「昨年度とあまり変わらない」と回答した学生は22.6%であった。在宅時間が増えたことで必然的に練習時間も増えることは想定内であったが、練習時間が増えた理由として他に挙げられたのは、「直接指導を受けられないことへの不安から練習に励んだ」、「前年度の課題よりも難易度が上がっているため練習を重ねた」などの意見である。このように一人で練習する難しさを感じ、その焦りから練習時間を増やし課題に懸命に取り組んだ学生がいる一方で、難しさから練習意欲が損なわれ練習時間が減ったという学生も少なからずいた。「一人だと練習方法が分からない」などの意見もあり、学習意欲の低下はピアノを家で練習する習慣のない初心者に見られた傾向である。また、家族との共用スペースで受講していた学生は、家族の協力が無い限り十分な練習時間の確保が難しいため、練習時間の減少に繋がったと言えるだろう。

(3) 対面授業との比較に関する設問

IV-7、IV-8では、1年次の対面授業「音楽と表現I」や「音楽実技I」と比べて「遠隔授業を受けて良かった」と思うこと、「遠隔授業を受けて困った」と思うことについて記述してもらった。以下、学生の回答から引用である(表4)。

「遠隔授業を受けて良かったこと」は大きく3つに分けられる。第一に、練習時間の確保が容易になったということである。在宅時間が増え、大半の学生が自分の好きな時間で自由に練習することができたため、練習時間が多く取れたことについての記述が多かった。

第二に、オンラインレッスンでは教員と学生のみ個人のレッスンとなるため、緊張せずにリラックスした状態

でレッスンを受講できたという意見である。通常の対面授業は少人数のグループレッスンのため、90分間クラスメートと一緒に空間でレッスンを受講しているが、オンラインレッスンでは一対一で受講できるため、周りの目を気にせず弾き歌いができ、分からないことなどがある場合も気兼ねなく教員に直接質問がしやすい環境であった。このことは、人前で演奏することに慣れていないピアノ初心者にとって、大きな利点であったに違いない。また、自室でレッスンを受けていた学生にとっては、周りの環境に左右されずにレッスンを受けられたことで集中力の向上が期待できたのではないだろうか。

第三に、演奏動画の活用についての意見である。毎週GCRに配信される演奏動画によって好きな時に繰り返し課題を視聴することが出来、復習することが簡単になった。対面授業のレッスンでは、教員が楽譜へ指導内容を書き込んだり、実際に隣で弾いているところを見せるなどの指導をしているが、次週になると学生は指導内容を忘れていたりすることが多いのが実情である。新曲の譜読みの際にも、限られたレッスン時間の中で細やかな指導が困難な場合が多い。今回遠隔授業で演奏動画の配信を採用したことで、自宅での練習にそれらの動画を有効的に活用していた様子が見受けられた。読譜力の無い学生の譜読みのサポートとして対応できるように、また中級者以上の学生には伴奏のバリエーションを習得できるような動画を作成することで、どのレベルの学生にも対応できる資料として今後も活用できるだろう。

「遠隔授業を受けて困った」ことには、以下の回答が挙げられた(表5)。

最も挙げられたのはインターネットの通信状況の問題である。レッスン中に、教員または学生の回線が不安定になったことで音が途切れ、著しいタイムラグが発生するなどスムーズなレッスンを受けられなかったことに対して不満の声が寄せられた。特にタイムラグに関しては、教員にとっても非常に悩まされた事案である。多少のずれではあるが、弾き歌いの指導においては、一緒に歌唱をしたり、ピアノを弾くことが出来ないというのはオン

表4 IV-7 学生の回答

◆「遠隔授業を受けて良かった」と思うこと
・家で過ごす時間が増え、ピアノに触れる機会が多くなったこと。
・先生に1対1で指導してもらえる時間が多いと感じた。分からない部分などの相談もやすかった。
・あまり他者を気にせず歌や自分の弾きに集中出来たことです。
・緊張せずに弾ける。対面授業とほぼ変わらないしっかりとしたレッスンが受けられる。
・練習時間が増えたこと。学校ではみんながヘッドホンしての中で先生との1対1のレッスンだったけれど、zoomは確実に先生と自分だけの2人の空間だったのでわからないところなど質問しやすかったです。
・対面授業と違って遠隔だと分らなかったときはいつでもクラスルームのお手本動画を見直すことが出来ること。
・緊張しやすい私にとって同じクラスの人に見られないことで気楽に演奏することができた。

表5 IV-8 学生の回答

◆「遠隔授業を受けて困った」と思うこと
・通信環境によって音が切れたり荒くなってしまうこと
・家でやるとどうしても家族の目が気になってしまったので、レッスン時間だけ買い物などで家を空ける配慮をもらったのが大変だった。(対面だとその必要がないから)
・対面授業の場合は、他の学生の進み具合等分かりますが、遠隔の場合はそれが全く分からないので自分が1番進みが遅いのではと考えてしまったこともありました。
・接続関係で声が聞きにくかったり、画面が止まってしまった事や友達や先生と直接演奏を聞いて練習をするのではなかったのでモチベーションの維持が少し大変だと感じました。
・直接先生が弾いている所をみたりして教わりたかったなと思いました。

ラインレッスン上の難点の一つと言える。また、自分の演奏が画面上でどのように聞こえているのか把握が出来ないことや、どれくらいの声量や音量でレッスンを受けるべきなのか悩んだという意見もあった。

オンラインレッスンでは周りの学生の様子が分からないため、自分の学習進度に不安を感じたという意見もあった。これは、一部の学生の学習意欲が低下した要因の一つになったとも考えられる。前年度のように、同じレッスン室内で他のクラスメートの練習の様子を見たり、演奏を聴いたりすることができないことは、学生のモチベーションに何かしらの影響を与えるのではないかと想定していたが、クラスメートの学習進度を気にして授業に取り組んでいる学生は予想以上にいた。お互いの演奏を聴く機会として、最終回の実技試験は公開試験にしていたが、クラス毎の合同授業の回数を増やし、クラス内のミーティングでお互いの進捗状況の共有をするなどの工夫や配慮が必要だったように思える。

Ⅳ-9では、1年次に受講した「音楽と表現Ⅰ」や「音楽実技Ⅰ」などの対面授業と比較した設問として、遠隔授業での「集中力」、「理解度」、「やる気・熱意」、「歌唱の技術」、「ピアノの技術」、「譜読み（新しい曲を弾けるようになるまで）のスピード」の5項目の意識の変化を調査した。その結果、以下ようになった（図2）。

84名の回答の中で、過半数近くの学生が「上がった」または「やや上がった」と評価した項目は、「集中力」、「理解度」、「やる気・熱意」、「ピアノの技術」、「譜読みのスピード」となった。集中力に変化を感じた学生の見解の中には、「家の時間が増えてピアノと向き合う時間や模索する時間が増えて集中力が上がった」という意見がある。反対に、「家にいると他のことをやろうと思えばやれてしまうので、少し集中力が下がったと感じました」と自宅にいる安心感によって集中力の低下を感じた学生も少数いた。

「理解度」に変化を感じた学生の見解では「周りを気にせずに練習に打ちこむことができたから。何度も授業

動画を見返すことで、分からない部分が理解できるようになったから」など、動画を復習に役立てたことへの記述が多く、演奏動画が「ピアノの技術」や「譜読みのスピード」の向上に繋がったと考えられる。

一方、「歌唱技術」に関する項目は「やや下がった」と評価する学生が1名のみで、「あまり変わらない」と評価した学生が最も多い。「ピアノの技術」の評価と比べると、歌唱については技術の向上を実感するのが難しいと言える。また、演奏動画では歌唱方法よりもピアノの演奏方法を重視した内容で作成していた傾向があったため、このような結果となったと考えられる。歌詞とメロディーの関連性や発声方法など、具体的な歌唱のコツについて細やかな指導の工夫が必要であったと感じた。

（4）遠隔授業の満足度に関する設問

Ⅳ-12では「オンラインレッスン」、「演奏動画（課題）」、「試験実施方法」の3項目の満足度に関して調査した結果、以下ようになった（図3）。

オンラインレッスンでは、84名中42名の学生（50%）が「非常に満足」または「満足」と回答した。寄せられた意見には「1対1での指導の時間が長くて、先生にも分からない部分の相談をしやすくて良かったから」、「先生との距離が近く、質問や相談がしやすかったこと」などが寄せられた。また、対面レッスンでは、おおよその時間は決められてはいるものの厳密に時間配分はされていないため、オンラインでは明確に入室時間が決まっているという点で、十分に個人指導が受けられたという記述も見られた。「不満」、「非常に不満」と評価した学生の意見には、「先生に近くで聞いてもらってアドバイスをもらった方が良かったと感じました」、「音が切れたりしてわかりにくかったりした為」と直接指導を受けられないことや通信状況の不具合による問題が挙げられた。

演奏動画（課題）の項目では、「普通」、「満足」、「非常に満足」の評価に分かれ、Ⅳ-16の改善してもらいたい点についての記述には、歌唱方法や指番号についてのさらに詳しい説明を要望する意見があった。

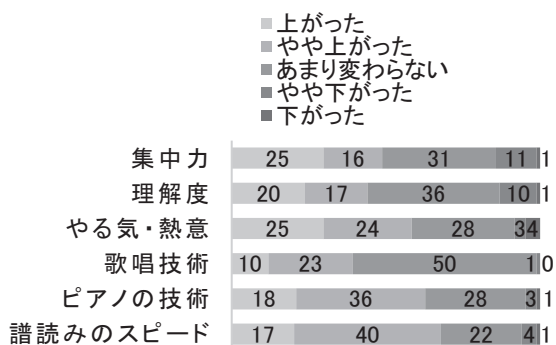


図2 Ⅳ-9 学生の回答

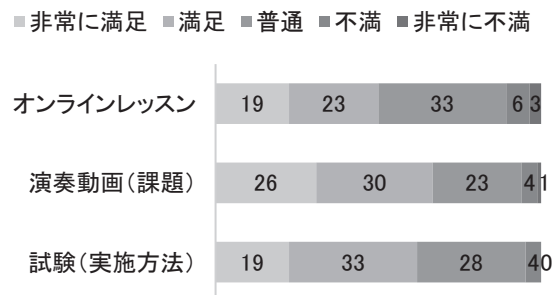


図3 Ⅳ-12 学生の回答

(5) オンラインレッスン・対面レッスンのメリットとデメリットに関する設問

IV-7、IV-8の設問と重複する部分もあるが、現2年生は1年次に対面授業で音楽科目「音楽と表現I」を受講した経験があるため、IV-17、IV-18ではオンラインレッスンと対面レッスンそれぞれのメリットとデメリットについて記述してもらった。以下、学生の意見から一部引用する(表6)。

メリットとしては、IV-9の回答に見られたように練習時間が増加したことについての記述が多い。また、プライベートな空間で安心して授業を受講できるということや、一人の空間で緊張せずにレッスンを受けられるということがメリットとして挙げられる。インターネットの接続不良以外で挙げられたデメリットには、強弱の表現、手の形や姿勢などの指導が十分に受けられないという意見があった。特に強弱や音色の指導については、学生が使用している楽器やデバイス、お互いのインターネットの回線状況によっては音質や画質に変化が生じることもあり、オンラインレッスンでは限界を感じる場所である。学生の学習環境によっては、弾いている姿勢の全体像を写せるように配置できる学生もいれば、手元を写すことに手一杯となる学生もいることから、指導の公平性を保つのが難しいと言える。

オンラインレッスンのデメリットは、対面レッスンのメリットに反映されている。最も寄せられた意見は、直

接指導してもらえらることやすぐに質問することができる、などの直接的なやり取りをメリットとして捉えているものである。また、オンラインレッスンでは難しいと感じた指使いや姿勢、音量や音色などの表現技術についての指導をより細かく受けられること、グループレッスンによるモチベーションの向上が対面レッスンのメリットとして挙げられた。対面レッスンのデメリットとしては、緊張や集中力の欠如などの指導内容以外の部分で記述している学生が多い。また、対面レッスンのデメリットは「特になし」と回答した学生も多く見られた。

アンケート調査のIV-19では、この授業の全体的な満足度を5段階で評価してもらったが、「満足している」が63.1%、「どちらかといえば満足している」が27.4%、「どちらともいえない」が8.3%、「あまり満足していない」が1.2%となり、学生の遠隔授業への満足度は予想以上に高く、半数以上の学生の練習時間が増加し演奏技術の向上が見られたことは、遠隔授業の思わぬ収穫であった。

4. まとめと今後の課題

まず、オンラインレッスンを実施する際は、学生の受講環境によって、指導の効果に差が生じるということは念頭に置きたい。インターネットの接続状況が最も懸念すべきことであり、音声や画質の乱れや演奏中に途切れてしまうなどの接続不良は、指導の効果に直接的に影響する。アンケートの回答から見られたように、学生はインターネットの接続状況に不安を感じながらレッスンを受けているため、レッスンの緊張感とは別のストレスを抱えたまま受講しているということを認識しておきたい。指導内容については、特に強弱や音色についての的確なアドバイスをすることが難しく、基礎的な技術を身につけた中級者以上の学生への対応に工夫が必要となる。正しい音程での歌唱やリズムの間違いを指導することは可能であるが、強弱や音色に関しての指導では、学生が使用する楽器の種類によって大きく違いが出るのはもちろんのこと、画面を通じた演奏ではどれくらいの音量で弾いているのか、どのような音色で弾いているのかを厳密に捉えることは不可能である。そのため、歌声やピアノ伴奏の細かいニュアンスを指導する場合は、画面越しの学生に伝わるように実演したり、言葉で具体的に説明するなどの工夫が求められる。

また、タイムラグによって一緒に歌ったり弾いたりすることができなかったことが、指導する上で苦労したことの一つと言える。同様に、学生の学習(撮影)環境によっては、指使いや姿勢、手の形などを対面レッスンのように効率良く指導することは難しいと言える。読譜力

表6 IV-17、IV-18 学生の回答

オンラインレッスン	
メリット	デメリット
練習時間が長くなる、1人でやるので集中できる。	ネットの環境によっては授業をまともに受けられなくなる。
緊張せずに弾ける。	個別レッスンをしている時間は自分の番の時以外は質問ができない。
いつでも演奏動画が観れるので何回でも観て練習が出来ること。	リビングで受けていると家族の目が気になる。
1対1の空間ができること、他の音に邪魔されないことだと思います。	練習のモチベーションが上がらない、すぐにわからないところを開けない。
自分の好きな時間に練習できる。	お手本が実際に見ることができない。
時間が決まっている、先生と1対1でレッスンを受けられる、家で練習する時間が増える。	回線や端末の問題で様々な不安を抱えながら授業に臨まなければならなかったこと。
自分の好きな環境下で練習ができる。	音の強弱ができないところだ。
1対1であるので先生との距離が近く、気軽に質問や相談ができること。	指使いを間違えていた場合、生徒もしくは先生が気づかないかぎり直す事ができない。
レッスン時間が決まっているため、集中することができること。	自宅で授業を行うため、あまり緊張感がないこと。
移動時間がない分、練習時間が多く取れる。	ピアノを弾いている指の置き方、形等しっかり見てもらえることが出来ないです。また、他の人の演奏を聴くことが出来ず、他の人からの学びが浅くなってしまふ点です。
対面レッスン	
メリット	デメリット
直に演奏を聞いてもらえるため、すぐに意見交換が出来たり質問ができたこと。	その日の授業で出た課題をその場ですぐに消化できないこと。
先生に直接指導してもらえらること。周りの人の進み具合を確認して、難易度を上げたり、緊張感を持って取り組めること。	先生の指導の時間が少し短く感じること。周りの人の順番もあるので、相談がしにくいこと。
先生の弾く姿を直接見ることが出来ること。	他の学生の進み具合を気にしてしまい、集中力が途切れてしまふ点です。
キーボードではないので音の強弱をしっかりとできること。	緊張しすぎて上手く弾けない、周りに影響され集中出来なくなる。
みんなの演奏を定期的にかけて、影響を受けてやる気が出る。	個人レッスンではないので一人に対するレッスン時間が少ない。
先生とコミュニケーションが取りやすい。	一人一人の進捗によってレッスン時間に差が生まれる。
指の使い方で細かい指導が受けられる。	特になし。

の低いピアノ初心者にとって、指使いの指導は注意深く進めていきたいが、画面上で指使いを指導するには、その度にカメラの位置を変更したりしなければいけないなどの手間がかかり、少ないレッスン時間の中で適切に対応することは困難であった。指使いを詳細に記載した楽譜の配布、運指の規則の説明などの工夫が必要であろう。初心者への指使いの指導については、今後も留意していきたい事案である。

おわりに

遠隔授業という初めての試みは手探りの状態で始まり、教員は試行錯誤を重ねて遠隔授業に対応した。オンラインによる指導は、弾き歌い指導という授業内容を考慮しても、2020年度に直面したコロナ禍の状況下では有効な指導法であったと感じているが、音楽（実技）科目を遠隔で実施することの難しさを痛感した。また、遠隔授業を実践したからこそ得た気付きもあった。今回の遠隔授業の実践で浮かび上がった課題を、今後の対面授業（または遠隔授業）の指導に活用していきたい。

参考文献

- 葛西健治・伊藤仁美・今川典子・多賀洋子・嶋田陽子・眞田千絵（2015）「保育者養成校における音楽授業科目に関する一考察(3)」『こども教育宝仙大学紀要』7, pp.13-24.
- 葛西健治・嶋田陽子・齋藤亜都沙・志田尾恭子（2019）「2019年度春学期「音楽と表現Ⅰ」報告—表現へのアプローチを主体とした初年次音楽教育の試み—」『こども教育宝仙大学紀要』11, pp.91-103.

注

- 1) 葛西ほか（2019）p. 92
- 2) ピアノレッスンでは、4人の教員が約6～8名ずつ担当し、少人数制のグループレッスンを行なっている。本学には4つのレッスン室があり、各部屋に10台の電子ピアノと1台のアップライトピアノが設置され、学生はそれぞれに割り当てられた電子ピアノで練習を行い（ヘッドフォンを使用して練習）、教員はアップライトピアノで一人ずつ個人指導を行っている。
- 3) こども教育宝仙大学教務委員会「遠隔授業の実施方法とルール」（2020年4月23日配布）より引用。